

モデルプログラム L-1 保護者・地域とのネットワークー学校と地域の連携ー

ねらい	地域の国際交流協会の役割を理解し、学校教育との連携の可能性を考える。
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生（教員養成課程他） <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員（管理職含む） <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員／母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input checked="" type="checkbox"/> 5年-9年 <input checked="" type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力（子どもの実態把握） <input type="checkbox"/> 捉える力（社会的背景の理解） <input type="checkbox"/> 育む力（日本語・教科の力の育成） <input type="checkbox"/> 育む力（異文化間能力の涵養） <input type="checkbox"/> つなぐ力（学校作り） <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力（地域作り） <input checked="" type="checkbox"/> 変える／変わる力（多文化共生社会の実現） <input type="checkbox"/> 変える／変わる力（教師としての成長）
主な内容	L 保護者・地域とのネットワーク B 外国人児童生徒等教育の背景・現状・施策
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ（・項目）	活動（◇活動の工夫）
1. 地域の状況を知る(10分) ・在留外国人統計(B) ・当該自治体の多文化化状況(集住／散在)(B) 2. 地域のNPOや国際交流協会の活動を知る(25分) ・地域の外国人支援の状況、国際交流協会、NPO団体等との連携(L) ・エスニック・コミュニティ(B) ・多文化共生教育 3. 多様な主体の連携について考える(25分) ・福祉・医療等関連機関との連携(L)	1. 地域に在住する外国人数の統計などを参照しながら、地域の特性を確認する。 ・外国人住民数の推移 ・勤務する企業・会社等 ・居住する地域 ・出身国・地域、言語・文化的背景、 2. 地域の国際交流協会やNPOの活動を知る。 1) 近隣の複数の国際交流協会のパンフレットやウェブサイト参照して、活動やイベント、 <u>エスニック・コミュニティの活力の状況</u> を確認する。 ※団体は規模や目的など多様な方がよい。 2) なぜこのような活動が必要なのかを考える。 3. 多様な主体の連携の実例から学ぶ。 1) 文献や「公立学校における帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな支援事業」(文科省)を初めとする各種報告書を読み、様々な地域で多様な形態で学校と地域の団体とが連携をしていることを知る。 2) 自分の地域であれば学校教育と連携してどのような活動があるとよいか考える。
備考	